

白鷗大学周辺の野草（3）

小 原 政 敏

（白鷗大学教育学部）

1. はじめに

環境科学A / B、保育内容研究（環境）、保育内容演習（環境）、理科教育法、理科概説、初等理科、課題研究A / Bを教えるものとしてこれらのどの科目も身近な自然の知識が必要であることから、白鷗大学の周辺の植物についての調査を平成18年度から実施している。

今年は、調査も3年目となり、身近な場所では新しく見つける野草が少なくなった。それでも、注意深く調べるとこれまで気付かなかった新しい野草に気付くことがある。同じ場所でも季節が変化するとその季節を盛りとする野草に出会えるものである。

今回も、前回掲載できなかった部分とその後確認できた野草をまとめたものである。白鷗大学は思川の川縁にあり、自然環境には大変恵まれている。この恵まれた環境を教材にして自然についての見方や自然環境の理解を深めるためにまず野草から調査することが最善の方法であると確信している。それほど広い範囲ではないが、調査すると実に多くの野草・木々・水生生物・昆虫・動物がそれぞれの命を育んでいる。すべてを調査するには長時間が必要であり困難であるが、分かったものから発表してこれからの講義や研究の基礎資料にするつもりである。このような身近な環境の地道な研究が学生達の自然環境保全への意識を高め温暖化をはじめ地球環境の変化の実証的な検証につながることを期待している。

2. 野草の調査結果

調査は、すべてデジタルカメラに写真として記録し、それを研究室の植物図鑑と比較してその植物の名前を特定することにした。植物図鑑等で名前が判明するものは環境を保全するために採取はしないことにした。以下調査で撮影した白鷗大学周辺の野草の写真と判明した名前である。番号は前回に引き続いて連番とした。

(103)



種名：アメリカフウロ（多年草）

科名：フウロソウ科

学名：Geranium carolinianum
Linn

葉：長い柄の先から5深裂し、さらに細裂する。

茎根：基部からよく分岐する。40cm程度の高さになる。

花：5花弁、直径5mmほど

分布：北アメリカ原産の帰化植物

撮影場所：思川河川敷公園

撮影日時：2008／5／1

(104)



種名：オヤブジラミ（2年草）

科名：セリ科

学名：Torilis Scabra

葉：複雑な形に細かく分裂

茎根：複雑に枝分かれする。

花：白い小さな5花弁

分布：本州～沖縄、朝鮮、中国

撮影場所：思川河川敷公園

撮影日時：2008／5／1

(105)



種名：チガヤ（多年草）

科名：イネ科

学名：Imperata cylindrica

葉：線形、長さ20～40cm

茎根：細く直立

花：小穂の基部に長い絹毛
が密生

分布：九州～北海道

撮影場所：思川河川敷横道路

撮影日時：2008／5／27

(106)



種名：不明

科名：

学名：

葉：

茎根：

花：

分布：

撮影場所：思川河川敷横道路

撮影日時：2008／5／27

(107)



種名：ノビル（多年草）

科名：ユリ科

学名：Allium grayi Regel

葉：根元から出る。

25～30cm

茎根：直立茎、円柱形で中空
地下茎は鱗茎、細い根が多い。

花：茎の先に穂になって咲く。

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄、中国、朝鮮

撮影場所：思川河川敷土手

撮影日時：2008／5／27

(108)



種名：アオカモジグサ（多年草）

科名：イネ科

学名：Agropyron ciliare Franchet
var. minus Ohwi

葉：線形、鮮やかな緑色

茎根：直立茎、大きな株にならない。

花：穂は垂れる。白緑色

分布：日本全土

撮影場所：思川河川敷道路横

撮影日時：2007／5／27

(109)



種名：イヌムギ（1～2年草）

科名：イネ科

学名：Bromus catharticus Vahl

葉：線形、下部では短くなる。

茎根：3～4本で株になる。

花：6～12個の小花が穂になっている。

分布：本州、四国、アジア大陸、南北アメリカ

撮影場所：思川河川敷土手

撮影日時：2008／5／27

(110)



種名：カントウタンポポ（多年草）

科名：キク科

学名：Taraxacum platycarpum
Dahlst

葉：根元から葉がでる。裂片は先ほど大きくなる。

茎根：花をつける茎のみ伸びる。中空

花：茎の先に舌状花ばかりの頭花がつく。咲くのは春に限られる。（セイヨウタンポポは季節にあまり左右されない。）

分布：本州（太平洋側）

撮影場所：思川河川敷堰堤

撮影日時：2008／5／27

（注）我が国のタンポポは地域によっていくつかの種類に分かれている。トウカイトンポポ、シロバナタンポポなどがある。セイヨウタンポポはヨーロッパ原産で日本全土に分布している。

(111)



種名：キキョウソウ
科名：キキョウ科
学名：T. perfoliata
葉：丸みのある葉
茎根：直立茎、根元で枝分かれする。
花：葉の付け根から小さな紫の花が咲く。
分布：北アメリカ原産、本州から九州
20年ほど前では関東地方では珍しい種であった。
撮影場所：白鷗大学通学路横の空き地
撮影日時：2008／5／27

(112)



種名：ユウゲショウ (多年草)
科名：アカバナ科
学名：Oenothera rosea L'Her.
ex Ait.
(E) pink eveningprimrose
葉：互生
茎根：茎は根元で多数分岐する。
花：茎の上部に淡紅色の4花弁の花を一つ付ける。
分布：熱帯アメリカ原産
明治時代に導入され野生化
本州～四国
撮影場所：白鷗大学通学路横の空き地
撮影日時：2008／5／27

(113)



種名：ヒメオドリコソウ（多年草）

科名：シソ科

学名：Lamium purpureum L.

葉：対生、卵形でハート形

茎根：直立茎、四角形、根元から枝分かれする。

花：茎の上部の葉の付け根に1～3個の唇型の小さな花

分布：ヨーロッパ原産の帰化植物、明治中期東京で発見現在は日本全土

撮影場所：白鷗大学通学路横空き地

撮影日時：2008／5／27

(114)



種名：ノミノツヅリ（越年・1年草）

科名：ナデシコ科

学名：Arenaria serpyllifolia L. ver. tenuior Mert. et Koch

葉：対生、葉柄なし。

茎根：直立茎、上部で枝分かれ

花：上部の枝の先端に小さな花が集まって咲く。

分布：日本全土、中国、台湾

撮影場所：白鷗大学通学路横空き地

撮影日時：2008／5／27

(115)



種名：カキドオシ（多年草）
科名：シソ科
学名：Glechoma hederacea
L. ver. grandis Kudo
葉：対生、葉柄がある。
茎根：茎ははじめ直立するが、花が終わると地面をはう。
花：葉の付け根に1～3個の花
分布：日本全土、朝鮮、台湾
撮影場所：白鷗大学通学路横
空地
撮影日時：2008／5／27

(116)



種名：ヘビイチゴ（多年草）
科名：バラ科
学名：Duchesnea chrysantha
Mig.
葉：互生、3枚の小葉からなる。
茎根：長くはう茎
花：葉の付け根から花柄が出て5枚の花弁の黄色い花
分布：日本全土、朝鮮、中国
撮影場所：白鷗大学通学路空地
撮影日時：2008／5／27

(117)



種名：タネツケバナ（越年草）

科名：アブラナ科

学名：Cardamine flexuosa
With.

葉：互生

茎根：10～30cmの高さ

花：茎の先端に数個まと
まって咲く。

分布：ヨーロッパ原産で本州
に広く分布

撮影場所：思川河川敷土手

撮影日時：2008／8／27

(118)



種名：タカサブロウ（一年
草）

科名：キク科

学名：Eclipta Prostrata L.

葉：対生

茎根：直立するか枝分かれす
る。

花：舌状花冠の頭花

分布：本州、四国、九州、朝
鮮、中国、台湾

撮影場所：思川河川敷公園

撮影日時：2007／8／30

(119)



種名：ウリクサ（一年草）

科名：ゴマノハグサ科

学名：Vandellia crustacea Benth.

葉：対生、卵形

茎根：地面にはう。四方に広がる。

花：茎の先、葉の付け根に唇型の花

分布：日本全土、中国、台湾

撮影場所：思川河川敷公園

撮影日時：2007／8／30

(120)



種名：イモカタバミ（多年草）

科名：カタバミ科

学名：Oxalis articulata Savign.
(E) wood-sorrel

葉：長い柄の先に心臓型の3枚葉

茎根：高い花茎を出して花をつける。

花：5弁のピンク色の花、直径1.5cm

分布：南アメリカ原産

1967年に我が国でも帰化が確認された。

撮影場所：思川河川敷公園

撮影日時：2008／9／3

(121)



種名：ヤグルマギク（越年草）

科名：キク科

学名：Centaurea cyanus L.
(E) cornflower

葉：線形、互生

茎根：茎は直立、途中で分岐する。

花：筒状の花が集まって頭花となる。

分布：バルカン半島原産、明治時代に園芸植物として導入され野生化した。ツタンカーメン王の棺の中に納められていた。

撮影場所：思川河川敷公園土手

撮影日時：2008／5／27

(122)



種名：ヒメムカシヨモギ（越年草）

科名：キク科

学名：Erigeron canadensis L.
(E) horseweed

葉：多数の細長い葉

茎根：直立で枝分かれする。

花：舌状花が集まり頭状花

分布：北アメリカ原産、明治初期に帰化し短期間に全国に分布した。

撮影場所：思川河川敷公園

撮影日時：2007／8／30

(123)



種名：マメアサガオ（一年草）

科名：ヒルガオ科

学名：Ipomoea lacunosa L.

(E) pitted morning glory

葉：長い葉柄について互生

茎根：ツル

花：小さな筒状の花

分布：北アメリカ原産

撮影場所：思川河川敷公園

撮影日時：2007／8／30

(124)



種名：クワモドキ（一年草）

科名：キク科

学名：Ambrosia trifida L.

(E) giant ragweed

葉：長い柄がある。3～7
に分裂

茎根：良く分岐し、高くなる。

花：頭状花（ブタクサに似
る。）花粉症の原因と
なる。

分布：北アメリカ原産、日本
全土

撮影場所：思川河川敷公園

撮影日時：2007／8／30

(125)



種名：ホナガアオゲイトウ
(一年草)

科名：ヒユ科

学名：Amaranthus hybridus L.
(E) spleen amaranth

葉：菱形に近い卵形、互生
茎根：直立してあまり分岐しない。

花：茎の頂と葉の腋に円柱状の花穂をつける。

分布：北アメリカ原産、5大陸に広く分布

撮影場所：思川河川敷公園

撮影日時：2007／8／30

(126)



種名：ニガクサ（多年草）

科名：キランソウ科

学名：Teucrium japonicum Houtt.

葉：葉は細脈まで分かる。

茎根：高さ30～70cm

花：淡紅色の唇型、下唇が大きい

分布：やや湿った草地に広く分布

撮影場所：思川河川敷公園

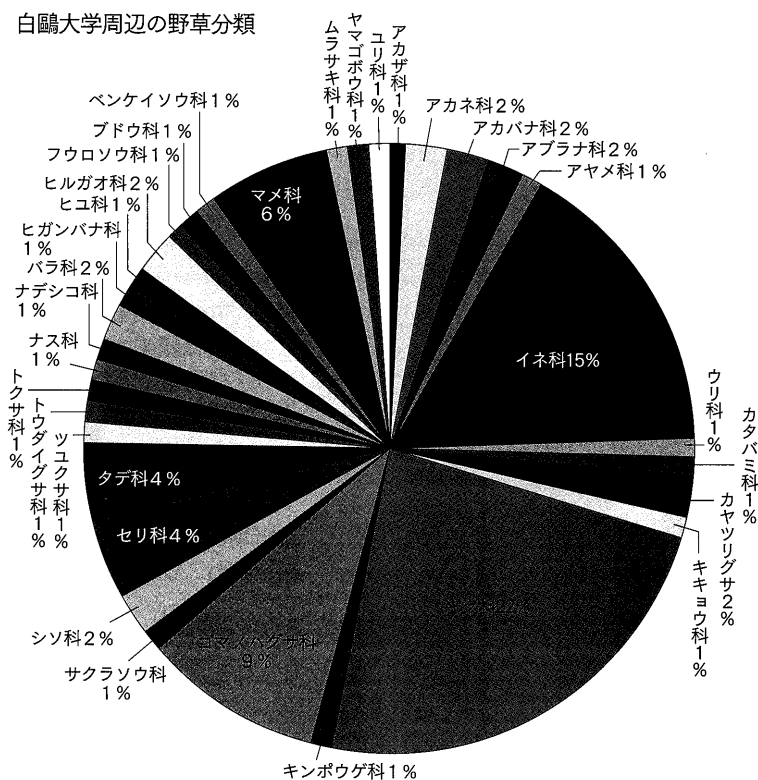
撮影日時：2007／8／30

3. まとめ

今回の白鷗大学周辺の野草調査は3回目となる。一昨年・昨年に続いて、思川河川敷の公園の周りと本学への通学路・校地内を調査した結果である。昨年度気付かなかった種類がまだ多数あることに驚かされる。多くの植物図鑑を調べても種名を特定できない野草も多い。これらについては今後も資料を補強したりして可能な限り特定していきたい。

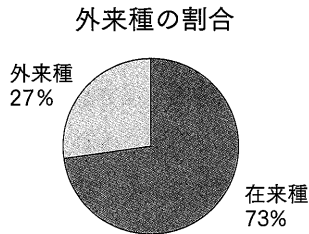
今回までの調査で種名が判明したものを科名で分類するとグラフ1のような状況であった。

白鷗大学周辺の野草分類



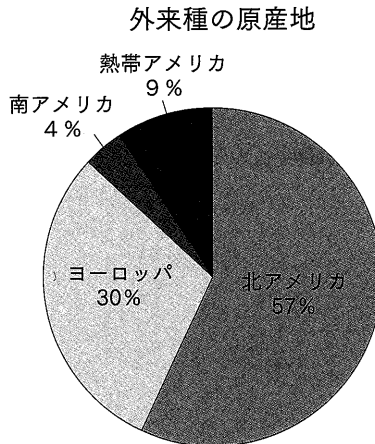
グラフ 1

このグラフから分かるように、白鷗大学周辺の野草の科名では、キク科が22%で最も多く、次がイネ科で15%、3位がゴマノハグサ科で9%である。キク科とイネ科は花が美しかったり、背丈が大きいのので比較的目に付きやすいが、ゴマノハグサ科の多くは背丈の大きな草の陰でひっそりと生えている種類であり、その存在は注意して観察しないと分からないことが多い。



グラフ 2

野草は意外と外来種が多いことがわかる。グラフ 2 のように30%を占めている。



グラフ 3

グラフ 3 から分かるように、外来種が北アメリカから半数強入ってきていることが分かる。このことは我が国が歴史的に北アメリカとの交流が特

に経済活動を中心にして多かったことと関係があるものと推測される。

今回も温暖化を裏付けるような植物がないかを探したが、野草の中から明確には見つけれなかった。むしろ、昆虫を中心とする動物の方が顕著と思われる。特に蝶の生息域の調査では温暖化の傾向があることが示されている（注：ナガサキアゲハの生息地が北関東まで北上している。2007年5月25日下野新聞）。植物では、昆虫のように生育域の差を示すことは難しいが、このような雑草についての調査が全国規模で充実されれば、植物からも温暖化の傾向を裏付けることが出来るかもしれない。

教育学部の学生の多くは、幼稚園・保育園・小学校さらには中学校・高等学校の教員として勤務することが予定されている。幼稚園・保育園においては自然環境は重要な保育環境である。豊かな自然環境を通して心豊かな人格形成の基礎が育まれる。小学校の子どもたちは、学校を中心とした学校の周りの自然環境の中で遊び生活をする事がほとんどである。豊かな自然の中から不思議さや驚きを感じて知性や人格を育てる身近な自然環境について、教職につくものは植物・動物・地形・地質などを含めて自然の環境状況を把握しておくことが大切である。今回のこの調査もこのような使命を担う学生たちにとっても意義のあるものとなることを期待している。

誤りのご指摘、不明な植物名のご教示をいただければ幸いである。

（注）ナガサキアゲハ



（出典）

<http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/youtyuu/HTMLs/nagasakiggeha.html>

（参考）カラスアゲハ



（出典）

<http://www.insects.jp/kon-tyokarasua.htm>

参考文献

1. 雑草博士入門
2. 原色野外植物検索図鑑 1～7
3. 日本帰化植物写真図鑑
4. 牧野日本植物図鑑
5. 都会の草花図鑑
6. 校庭の雑草図鑑
7. 原色野草観察検索図鑑
8. 図解植物観察辞典
9. 野に咲く花

全国農村教育教会
全教図
全国農村教育教会
北隆館
八坂書房
南方新社
保育社
地人書館
山と溪谷社